

偶然の出会いや出来事が、 自分を活かす道へと導くかもしれない

高原朗子 熊本大学教育学部附属教育実践総合センター教授 教育学部附属特別支援学校校長(兼任)

大学1年の時に参加した ボランティア活動が岐路に

九州大学経済学部の学生であった大学1年のある日、「もし暇だったら手伝って」と教育学部の友人に誘われ、自閉症児への支援グループのボランティア活動に参加したんです。自閉症児の行動や発言に強い興味を持ち、卒業後はそのまま自閉症者のための福祉施設に就職しました。しかし「彼らが好き」という気持ちだけでなく、知識や技能を身につけないと適切な支援はできないことを痛感。当時の施設長にも「愛情だけではプロの仕事は出来ないよ」と厳しくも温かいアドバイスをいただき、大学院で障害児心理学を学ぶことを決意したのです。

私はもともと、人間関係を築くことが苦手だったので、会計学を学ぼうと、経済学部に進みました。実は「産業スパイ」に憧れていたのもあり(笑)、興味を持って勉強していました。ところが先述したように思わぬ出会いにより、人間関係どっぶりの心理学分野に方向転換することに。大学院入学の折りは、経済学部のゼミの恩師が「心理学分野に進むのならば」とマズローの心



不登校対策(ユア・フレンド)事業

理学の本をくださり温かく送り出してくださいました。

偶然の出会いが 未来を変えることも!

臨床心理士として、発達障がい児・者へ心理劇(集団心理療法・ロールプレイ)を行い、社会性の向上や適切な感情表現ができるよう支援しています。その他、不登校やいじめなど教育に関わるカウンセリングも行っています。平成23年からは、東北大学の教員と協力して東日本大震災で被災した発達障がい児やその家族の心理支援などに関わっています。

彼らがどんどん成長し、自分の気持ちを伝えることができるようになった時の喜びは大きいです。数十年前に関わった子が今でも連絡してくれることがあります。電話で一言「赤いきつね」、私が「緑のためき」と応えると、そこでガチャんと切れる。彼と私の暗号のような合い言葉が今も健在です(笑)。

思わぬ出会いにより自分を活かす道が開けることがあります。どんなことも無駄だと思わず、たくさんの出会いをご自分の糧にしてみてください。



附属特別支援学校行事の打ち合わせ



子どもたちが作ってくれた「さおり織」のストールです ←

Akiko TAKAHARA

大学教員
福祉施設
博士課程(中退)
修士課程(心理学)
福祉施設(指導員)
経済学部

自分自身の心身が健康であることを大切にしています

One day

6:00 起床
8:15 大学(もしくは附属特別支援学校へ)
8:40 大学で講義やカウンセリング・研究活動もしくは支援学校勤務
17:00 大学(実践センター)で研究活動
19:00 学習会や資料整理等
帰宅
23:00 就寝

◎座右の銘
行蔵は我に存す
◎リフレッシュ方法・落ち着く場所
毎朝の近所の神社への参拝

profile

たかはらあきこ/九州大学経済学部卒業、同大学院教育学研究科で障害児心理学を学ぶ、博士(人間環境学)。福祉施設研究相談室長や、いくつかの大学を経て現職。臨床心理士・自閉症スペクトラム支援士(エキスパート)等として教育・福祉分野で発達障がい児・者の心理支援やカウンセリングを行う。著書として『発達障害のための心理劇』(2007)・『発達障害児の生涯支援』(2012)(各九州大学出版会)他。

アンケート より

Q.将来教授というポジションを望まない理由は?

- 現状で満足しているため
- やり甲斐は臨床の場にあるから
- 教授は大変だと思うから
- 研究以外の仕事がさらに増える状況は望まない